



川高同窓会報



埼玉県立川越高等学校同窓会
〒350-0053 川越市郭町2-6 川越高校内

【同窓会】電話・FAX (049) 225-9071 (直通) <http://alumni.gnk.cc/kawagoe/>

【学 校】電話 (049) 222-0224 (学校) <http://www.kawagoe-h.spec.ed.jp/>

特集 座談会「川高から制服が消えた日」



目 次
会長・新校長・前校長挨拶 2
秋季散策会 3
30年度案内・所沢初雁会 3
29年度報告・小川初雁会 5
「川高初雁の森レポート」 4
くすの木俳句大会案内と報告 5
創立120周年記念に向けて 6
29年度総会記念講演 7
神山典士氏(高31) 31
特集 座談会「川高から制服が消えた日」 8
定時制ものがたり 12
「生徒とともに歩んだ」 12
事業主と教師の会 12
第五回紫縁展・くすの木団碁クラブ 13
各地区初雁会連絡先 13
母校だより(一) 14
母校だより(二) 15
文化講演会 15
埼玉医科大学教授 16
松本万夫氏(高22) 16
母校だより(三) 17
平昌パラリンピックに出場 17
部活動の主な活躍 17
母校だより(四) 18
「川高サイエンス」報告 18
母校だより(四) 19
進学状況・人事異動・転任 19
事務局より 19
叙勲受章者・寄贈図書 19
同窓会総会のご案内・編集後記 19

会長挨拶



同窓会会长
菊池 建太(高17)

昨年の同窓会総会において、創立120周年記念事業実行委員会の立ち上げを承認いたしました。その後、6月中旬第一回実行委員会を開催し、総務・行事・事業の3つの部会で具体的検討を進め、実行委員会は今年の3月末までに延べ5回開催いたしました。そして、2019年11月1日に記念式典を実施する予定です。来年は4月末に天皇陛下が退位され、平成が終わり新たな時代が始まります。

今年3月末に高等学校学習指導要領改訂の告示が出されました。グローバル化が一層進展する世界の中で、これからの日本の高校教育の大きな変革が予想されます。アクティブラーニングという主体的・対話的な学び方に転換し、新たな科目も登場します。それに合わせて2021年1月実施の大学入試センター試験も大きく変わることが報道されております。このような変化する高校教育の中で県立川越高校がさらに発展していくたることは、変化を見越しての学校の取り組みが第一です。さらには、人的・財政的な同窓会の支援が必要と思います。幸い、川高同窓会は各支部の活動が活発であり、従来からも母校が

の教育支援を行つてある支部もあります。また、本部としても支援してまいりました。そこで120周年記念事業は母校への継続する教育支援を中心と考えております。

さて、恒例の同窓会の秋の散策会は、昨年は11月12日、小川初雁会に行つていただきました。会の総力を上げての取り組みで、板石塔婆の採石地、和紙センターなど盛りだくさんの見学が実施されました。老舗「二葉」での懇親会も大いに盛り上りました。

今年度は所沢初雁会が担当していただけます。昨年度同様多くの方の参加を期待します。最後になりますが、今後とも、皆様方の同窓会に対します御支援・御協力をお願い申し上げ挨拶といたします。



校長 飯田 敦

着任に当たつて

平成30年4月1日付けで、前任の青木勇藤校長を引き継ぎ着任いたしました飯田敦と申します。本校の輝かしい歴史と伝統、文武にわたる実績をさらにグローバル社会におけるリーダーとしての人材育成には、変化を見越しての学校の取り組みが第一です。さらに人の・財政的な同窓会の支援が必要と思います。幸い、川高同窓会は各支部の活動が活発であり、従来からも母校が

谷市に生まれ、小学生時に埼玉県東松山市に転居し、現在に至っています。熊谷高校から東京外国语大学を卒業し、一旦銀行に就職しましたが教職につきたくて、そこを退社し教員採用試験を受けて埼玉県の教員になり現在に至っています。

青木前校長先生との御縁はいろいろとあります。川越市教育委員会での勤務も青木先生を引き継がせていただきましたし、私が県立学校人事課学校評価幹の時は、青木先生は県立学校部の副部長でいらっしゃて、日々のご指導をいただきました。

さて創立120年を来年度に迎える本校は正に大きな転換期を迎えていると言つてもよいと思います。来年度入学生から年次進行で「進学型」の単位制へ移行いたします。これまでとは大きく異なり、思考力・判断力・表現力が問われるタフな問題になっています。我々は学校の教育活動を通して生徒にこの勤務も早三年を経ました。

川高を昭和51年に卒業し約40年の後、学校の歴史を長く見てきた「くすのき」の下での勤務も早三年を経ました。この間、同窓会の田中正前会長様、菊池建太会長様をはじめ会員の皆様には、母校の教育活動に対しまして一方ならずご協力、ご支援を頂戴し、心から感謝申し上げます。

在任中の平成27年度には、高校29回卒の梶田隆章東京大学特別栄誉教授がノーベル物理学賞を受賞され、学校はまさに梶田ファイバーに包まれました。梶田教授は、川高生への講演の中で、「いつ、人生を決めるような大切な人やものに出会つてもいいように、広く目と心を開いて準備をします。」と語りかけられ、生徒の大きいな

退任にあたつて



校長 青木 勇藤(高28)

菊池建太会長様をはじめ、待に応えられるよう精一杯努力してまいりたいと思います。さて、平成28年度末で11年間に亘るSSH指定が終了しましたが、その間に蓄積したカリキュラムやノウハウを本校独自に活かしていく「川高サイエンス探究」なる事業を立ち上げました。さらに、グローバル化社会に対応するため、「グローバルリーダーシッププログラム」を3ステップで展開しております。去る3月下旬には21人の生徒がUCLAへの短期留学をしてきました。

ところです。両事業とも、生徒にとって自分の将来の生き方を真剣に考える絶好の機会となっていますが、これらの実施に際して同窓会から特段のご支援を賜っております。

今後、大学入試改革、学習指導要領の改訂、教員の働き方改革と世代交代など、高校教育は難しい課題に直面しますが、本校では指導体制をより充実するため、平成31年度から「進学型の単位制」に移行することとしました。同窓会の皆様にはなお一層のご支援、ご鞭撻をお願い申し上げます。私個人としても、同窓の一員として母校のために微力を尽くしてまいりたいと思います。3年間、諸事にご指導を賜り有難うございました。

秋季散策会 30年度のお誘い

所沢初雁会

今から107年前の明治44年、フランス製の航空機「アンリ・ファルマン機」が日本初飛行に成功した歴史的な飛行場(所沢飛行場)の跡地にある「所沢航空記念公園」を散策します。

一、日時

11月18日(日)

集合 午前9時45分

二、集合場所

西武新宿線「航空公園駅」東口下車徒歩7分

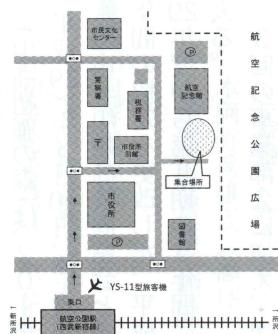
所沢航空発祥記念館前
屋根付きスペース

三、懇親会場

ベルヴィ・ザ・グラン
所沢市星の宮1-3-5

四、懇親会費
(同伴者5000円)
7000円

【集合場所地図】



術・歴史などを迫力ある多数の実機や体験展示シミュレー
ション・映像を通じて、楽し
みながら理解できます。



■フォール大佐像



1919(大正8)年、航空技術先進国フランスから来日し、所沢で指導に当たつた軍将校の記念像。

1944(昭和19)年飛行場内・健空神社参道に建立され、空を見上げる少年飛行兵の姿は、操縦・通信・整備の協力を表している。

■大正天皇駐輦の碑

1912(大正元)年11月、川越で陸軍特別大演習が行われた際に、大正天皇が所沢飛行場へ来場し、飛行機を観察した。

【散策地の主な見所】

航空機の飛行原理や航空技術

次は、13世紀頃から関東で仏教信仰の高まりを受け、盛んに建立された地元下里・青山石製の武藏型板碑の石塔の製作現場を訪ねた。

急峻な坂道を登り、板碑の製作現場である「割谷遺跡」

平成29年度 散策会報告

小川初雁会

11月12日(日)、晚秋の好天の下、総勢80余人の参加を得て3台のバスに分乗し出発した。

まずは、国の重要文化財に指定された大聖寺の「六面塔」を見学した。我が国最古の供養塔であり、当地から産出される下里石(緑泥石片岩)の六角の筒型の塔であつた。その由緒について、小川町教育委員会の高橋好信氏から解説していただいた。地元の人でも初めて聞く話で、熱心に耳を傾けていた。



高橋氏の解説を聞く参加者

に向かつた。岩に矢穴痕が残る「豊大の板碑や、板碑形のケガキ線など石材等が保存されていた。高橋氏の、この場所の発見の苦労話に聞き入った。

ここでは、小川町図書館長の新田文子氏に解説していた仙覚律师を顕彰した碑文のある中城跡地。

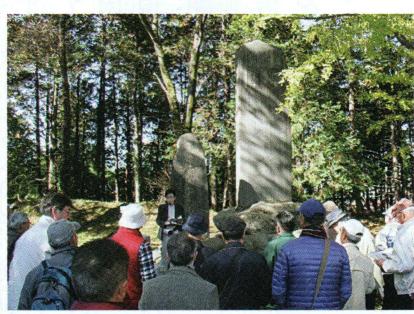


割谷遺跡に向かう参加者



埼玉県伝統工芸館で記念撮影

前にユネスコ世界遺産登録された小川和紙の手漉きを見学した。時間的にタイトであったので紙漉きの体験ができず、申し訳なかった。ここで参加者の記念写真となつた。



仙覚律师の碑文を見学する参加者

懇親会は、山岡鉄舟が名付けた「忠七めし」で有名な割烹旅館「二葉」で行った。小川町の銘酒「晴雲」を痛飲し、最後は肩を組み、応援歌・校歌の大合唱でお開きとなつた。

関根 堅司(高3)

第6回「川高初雁の森」レポート

「川高初雁の森」は、2017年(平成29)年3月10日、埼玉県・飯能市・川越高校同窓会と5年間の協定を更改した。平成29年度から第Ⅱ期の5年間に

入る。飯能市・川越高校同窓会と5年間の協定を更改した。平成29年度から第Ⅱ期の5年間に

3回の事業部会に加え、次の活動を行つた。

下刈り作業

6日16日(金)、同窓生・飯能市職員及び「森の番人」の計28人で下刈り作業を行つた。約2時間

の作業だったが、参加者は手慣れた方が多かつたので、大部分が整備された。

第6回植樹祭



り、現役生の力が多いに役に立つた。

平成30年度の事業計画

- 事業部会 年3回
- 下刈作業 6月15日(金)
- 植樹料の納入状況

平成29年度	納入額	1,712,063円
納入者	4団体326人	
これまでの納入状況		
総額	15,798,231円	
延納入者	3,265人	
これまでの事業費	13団体 約1,389万円	

「川越高校新聞」取材記事

(10月31日号)より

9月24日、飯能市名栗地区の「川高初雁の森」にて川越高校同窓会主催で植樹祭が開催された。

この植樹祭は今年で6回目を迎え、多くの本校OBや現役川高生、飯能市職員の方々が参加した。この活動に関し、飯能市職員の淀川茂さんと、同窓会で植樹祭の事業部長を務める市川章弘さんに話を聞いた。

▼淀川さんの話

植樹活動を行うことになった経緯

2006年に飯能市がこの

土地を取得した際、元々墓地にする予定であつたため、伐採後で何も状態だつた。そこで、2008年に埼玉県にこの土地を貸出して植樹活動を行つてもらつたが、植樹した苗の本数や面積が不十分だった。そのときに川越高校が植樹地を探していたため、それに協力する形で2012年からこの活動を始めた。

植樹活動をどう思っているか

川越高校の同窓会と協力することで、資金や労力を確保できて助かっている。また、

この活動が名栗の美しい景色やハイキングコースを観光名所としてPRするきっかけになつたので、とてもありがたいと思つてている。

これまでの5年間の成果

植樹することに重点を置いて活動してきたが、土地の不良による成長不足やシカによる食害などがあり、本来の計画通りには進まなかつた。

これから運営の方針

現在植樹を行つている地域では、鹿や猪などの動物が出没していて、昨年度は植樹した場所を荒らされてしまうということが度々発生してい

これからの運営方針

では、鹿や猪などの動物が出没していて、昨年度は植樹した場所を荒らされてしまうということが度々発生している。

今年はこのような被害を前に回避するため、植樹を行つた場所に柵を作つた。これからも改善すべき点は見つかること思うが、その都度対処していく。

まずは全ての苗を植えきることを目標とし、それらを育てていくことを中心に頑張つていただきたい。

川高生に一言

この植樹活動はこれからも未永く続けてほしいと思う。そのため、川高生にはこの活動を試行錯誤しながら支えてもらいたい。

祭だが、参加した多くの人々の努力が実つて育樹の段階に入ることができた。

これからも飯能市役所の人たちと協力して山の管理や除草を行つていこうと考えている。また、現在同窓会に所属する人々は年齢が上がっており、植樹などの力仕事は困難になつてきた。そのため現役川高生のような若い力が不可欠だ。植樹には終わりが無いので、皆さんの若い力を借りながら、これからも活動を続けていきたい。

創立120周年記念に向けて

1899(明治32)年、川越城址の一部を拓き、「埼玉県第三中学校」として開校して以来、来年の2019年に創立120周年を迎えます。

なお、開校記念日は5月28日です。

平成29年3月21日、第1回創立120周年事業開催準備委員会を設置することを決めました。

平成29年5月13日、創立120周年記念事業の骨子を協議す

るとともに、準備委員会から実行委員会へ移行することを決めました。

実行委員会の設置

平成29年5月28日の同窓会

総会において、「創立120周

年記念事業実行委員会の設

置」が承認されました。

これを受け、29年6月17日

第1回の実行委員会が開催されました。

ここで、関係団体協力の下、役員が選出されました。

・実行委員長 同窓会長・菊池建太

・実行副委員長 同窓会副会

・常任委員 同窓会・細田宏

・藤裕之 P.T.会会長・青山博

・長・西信之、後援会会長・伊藤保夫、後援会・柿澤日出



創立時(明治32年頃)の本校

経緯

2016(平成28)年11月21日

に同窓会会长・副会长会を開き、創立120周年記念事業を行うことを協議し、学校関係団体の後援会・P.T.会に呼び掛けました。

(同29)年1月7日、同窓会会長により、2017年1月7日

夫、正木一弘、教職員・小川剛、幹事 同窓会・岡部恒雄、後援会P.T.会・細田潤、教職員・岩崎裕

夫、正木一弘、教職員・小川剛、幹事 同窓会・岡部恒雄、後援会P.T.会・細田潤、教職員・岩崎裕

・日 時
2019年11月1日(金)
午後1時より

定期演奏会等に「川越高校創立120周年」の冠を付してPRを図る。

実行委員会より、その活動支援のため必要経費の一部を補助する。

専門部会の設置

さらに、記念事業の実効性を高めるため、実行委員会の下に専門部会を設けることとしました。

・内 容
I部 記念式典
(午後1時～2時)
II部 記念講演
(午後2時30分～4時)

五、交流事業

講師 梶田隆章氏
III部 アトラクション

現役生の活動発表
(音楽部・応援部等)

六、学校支援事業

講師 梶田隆章氏
III部 アトラクション

・両校現役生の運動部の交流戦や文化部の交流活動

・両校同窓会員による囲碁などの交流

・事業部会は、記念式典・記念誌編集・学校支援

・行事部会は、記念式典・記念事業・交流事業

・専門部会は三部構成で、
・総務部会は、庶務担当

・事業部会は、会員名簿・記念誌編集・学校支援

・行事部会は、記念式典・記念事業・交流事業

・専門部会は三部構成で、
・総務部会は、庶務担当

る定期演奏会等に「川越高校創立120周年」の冠を付してPRを図る。実行委員会より、その活動支援のため必要経費の一部を補助する。

当該年度に、毎年行われてい

四、記念事業

本校の開校記念日は5月28日ですが、新学期等の行事が多く重なることがあり、次日の日に決定しました。

現在(平成29年当時)の本校

編集長 本日はお忙しい中お集まりいただき、ありがとうございます。中学生からも問い合わせが多くあるというこ^とですが、なぜ川越高校には制服がないのか？

かつてかぶつていた白線2本の学帽は、旧制川越中学創立以来の伝統でした。



特集 座談会

一川高から制服が消えた日

かつて、白線二本の学帽は、旧制中学・県立川越高校の象徴であり、埼玉県西部地区の中学生の憧れであつた。あの『制帽』はいつ無くなつたのか。制帽を被り登校してきた年代層にとつて疑問の一つである。

当時をよく知る次の方にお集まりいただきたい。

栗澤日出夫氏	内野雅視氏	市川英一氏	内田徹氏	野口孝氏
(高22)	(高22)	(高23)	(高23)	(高25)
栗原由郎氏	大澤誠編集長	平野正美氏	同窓会報編集委員会から	
(高21)	(高26)	(高26)		
平野正美氏	同窓会報編集委員会から			
(高26)				
栗原忠男氏				
(高20)				

大澤 誠編集長（高26）
栗原 由郎氏（高21）
平野 正美氏（高26）
同窓会から

柿澤　当時は、ベトナム戦争のまつただ中、中国では文化大革命の嵐が、国内でも安保を背景とした学園紛争や反体制運動の高まりなど、社会は荒れていた。

私は3年B組だつたのです
が、中核派とベ平連の活動家
が3人いましてね。

彼らが中核となつて校長室を3日間占拠しハンガーストライキを行つたり、シンパと一緒に校門にバリケードを築き口々クアウトをやつしたことがあつた。

かつてしまつた」と聞いたことがある。

それほど特徴的な制帽や制服が、どの様にして自由化に至ったのか。校則が変わつていつた当時のお話をお聞かせください。

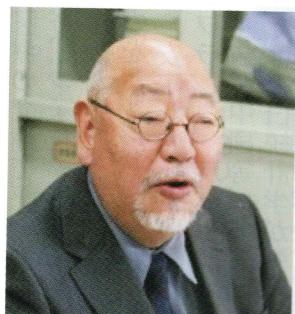
川高の学園紛争

柿澤 当時は、ベトナム戦争のまつたび中、中国では文化大革命の嵐が、国内でも安保を背景とした学園紛争や反体制運動の高まりなど、社会は

柿澤 機動隊が介入して封鎖を解いたのは川越高校が全国で初めてのことだと聞いてい
る。

そんなバックグランドもあつて、制服自由化の問題も浮上したのではないか。

ると6項目の概要是、
①70周年記念に関するいつさ
いの行事事業を中止せよ
②形式的卒業式を廃止せよ
③ペーパーテストを撤廃せよ
④通知表等による評価を撤廢



柿澤日出夫氏



内野雅視氏



野口孝氏

⑤文部省指導手引書・文部省

見解に抗議せよ

⑥以上を全校集会の場において

て確認するまで授業を中止せよ

というものであり、当時の生徒会と学校が各項目に対し本

入学式の日に校門のところでヘルメットにマスク姿の人が「入学式反対」のビラを配つていて、あつけにとられた記憶があります。放課後、ペ平連の人達が校内をデモしていました。「三里塚闘争」もあつて新聞部の先輩が「俺はこれから三里塚に行く」と出かけて行つたことがあります。

市川 70(同45)年6月23日のことだつたと思ひますが、川高生だけでも120人。市内各校が校内で集会を開いた後、川越駅で合流しシユプレヒコールを上げて皆で「友よ」を歌つてました。



市川英一氏

野口 確かに当時、学園紛争はありましたが、制服が消えたのはそのことは関係ありません。
68(同43)年の文化祭の時にいろいろな人達にアンケート調査を行いました。その一つに白線帽についてどう思いましたかという項目がありました。調査結果を資料で確認してみると「インテリ・秀才・田舎つぺ」一部の人には高校生らしくて良い感じ。女子高生に意外に人気がある。廃止論者は「白線はエリートの象徴だ。田舎臭い。無意味だ」と言っているが、「われわれはそんなことに気が回す必要はない。川高のシンボルとして愛そぐじやないか」とまとめている。この時から白線帽に関する意識が強まってきたようだ。

内野 制服には軍服のイメージがあつた。制帽もかぶらな

いと、その場で先生に叱られたこともあった。「制服・制

制服自由化へのプロセス

て帰つてしまつた。

帽子は俺たちを規制する象徴だ」という感覚があつたのは事実だ。

しかし、戦時に戦闘帽・ゲートルで学生生活を送つた年代の先輩達の話を聞くと、「戦後、学生服となり、やつと自由を得た、平和の象徴」と言つていたが。

69(同44)年4月30日から3日間、生徒心得改正について「生徒心得検討委員会」が設置され、討論会が開かれた。同時に先生方は4月30日「生徒心得」の改定準備のための準備委員会を教諭8人で組織している。

自分は、あみだくじの選挙で委員に選ばれ、「頑張ります」と決意表明をした。

市川 確か生徒総会が開かれ度も「生徒心得問題」について話し合い、生徒がより身近に感じたことは事実だ。

野口 各クラス1人、総勢30人で構成される検討委員会が開催。25回の委員会を経て「生徒心得検討委員会最終報告」が提案された。

内田 自由化への取り組みは熊高が最初。激しい運動があつたようだ。川高はそれに続いて動き出した感じだ。

内野 この年の入学式ロックアウト事件の時、校内に侵入した生徒に警察の捜査の手が及ぼうとした。そのとき「これは学校の問題だ」として先生方が署名を集め警察に捜査の中止を申し入れたと聞いています。

柿澤 そうした運動の中で、私の3年ときの予餉会では立川談志を招いた。落語はやらず、一部の生徒と政治談議し

帽は俺たちを規制する象徴だ」という感覚があつたのは事実だ。

しかし、戦時に戦闘帽・ゲートルで学生生活を送つた年代の先輩達の話を聞くと、「戦後、学生服となり、やつと自由を得た、平和の象徴」と言つていたが。

69(同44)年4月30日から3日間、生徒心得改正について「生徒心得検討委員会」が設置され、討論会が開かれた。同時に先生方は4月30日「生徒心得」の改定準備のための準備委員会を教諭8人で組織している。

自分は、あみだくじの選挙で委員に選ばれ、「頑張ります」と決意表明をした。

市川 確か生徒総会が開かれ度も「生徒心得問題」について話し合い、生徒がより身近に感じたことは事実だ。

野口 各クラス1人、総勢30人で構成される検討委員会が開催。25回の委員会を経て「生徒心得検討委員会最終報告」が提案された。

内田 自由化への取り組みは熊高が最初。激しい運動があつたようだ。川高はそれに続いて動き出した感じだ。

内野 生徒だけでなく、教員も自分たちの意見を対等に同じ目線で、自分の意見として論議した。上から目線で「こ

弊を打破する」という意識が

強かつたことは事実ですね。生徒心得にしても「誰が作つたか分からぬものを守れ」た。

内野 当時の意識として「旧

いう候補もあつた。

市川 制服の自由化が中心でなく、自主活動の保障が中心だった。

野口 資料によると4月23日、職員側による準備委員会が発足。

5月19日 生徒総会全員投票

6月30日 準備委員会発足。

7月15日 準備委員会発足。同委員会は都合13回開催された。11月22日、信任投票が実施。同26日第1回検討委員会開催。25回の委員会を経て「生徒心得検討委員会最終報告」が提案された。

内野 第一条 あらゆる自主的民主的活動(集会への参加、その開催、サークルの結成、その他)自由を保障する。

内野 第二条 揭示、印刷物の発行、配布のあらゆる表現の自由を保障する。

第三条 服装については個人の自由意思に任せること。

70(同45)年3月23日の生徒総会で付帯事項を受けた「生徒憲章」及び15条からなる「生徒規約」が承認された。「川高全学闘争委員会」の要求とは無縁であった。



内田徹氏

関係する職員・生徒たちの血のにじむような産物でした。

その成果は、70周年記念誌に掲載されている黒江生徒会長の「70周年を祝して」という文に表されている。

「(略)さて現在の川越高校の現在の時点における姿はどうなものでしょうか。(中略)最も注目すべき事は、昨年5月からの生徒心得の検討ではないかと思われます。私は周辺の学校では本校が最初ですが、民主的な方法でここまでこぎつけたということは、やはり過去に築かれてきようか。また激しい受験競争の中にあって、クラブ全員加入制が今日まで維持され、クラブ活動の活性化が図られてきたことも高く評価されるべきものです」

最後の制服 修学旅行

市川 「制服・制帽」は廃止されたのでなく、服装が自由になつたということ。私は

制服制帽で通学していました。そのうち制帽はかぶらなくなつたけれども。帽子・制服は段階的に消えていったのですね。3年の時に自由化になつたが、制服を着てこなかつた人は一人だけで、ブレザー姿だった。

内野 全員制服姿の修学旅行

は22回生で、これが最後になつた。

野口 私は25回ですが、入学式の時、制服・制帽で行きました。すぐ制帽はかぶらなくなりましたが、「夏はTシャツ、冬は学ラン、学生服じやない」とまずい」という雰囲気がまだあつた。一度セーターで行つたが、気まずかった。

編集長 私が中学のころは、川高の制服・制帽に憧れていたが、入学したら全くくなつていた。

平野 26回ですが、1年の差は大きいですね。私たちの時代は、「学ランは応援団か、野球部か」というイメージでした。2本線をつけていなくとも、川高生のプライド・ス



最後の制服・制帽による修学旅行となつた高22回生

学した時は、先生も生徒みんなびりしたもので、デレッとした雰囲気が学内に溢れていました。

お祭りの後のけだるい感じで、授業もいまひとつ、という雰囲気で、それが今まで続いていなければいいのです

内野 私のときの元全日制編集長 何かきっかけがあつたのですか。

市川 話は変わりますが、文

化祭を「くすのき祭」に変えたのもこの時でした。「初雁祭」という候補が有力だったが。

内野 私のときの元全日制編集長 何かきっかけがあつたのですか。

市川 授業改革ということです、生徒会の自主講座を行つた。「形而上学について」「実存主義から構造主義へ」などの格式の高い講座が開かれました。

自由化後の校風は

校新聞紙上で、「今年から外見的にも川高独自の校風を出すことにした。くすの木は本校を訪れた方ならどなたもご存知のことだと思いますが、言うまでもなく『川高の象徴』というべきもので、本校の歩みとともに現在まで成長してきました。過去に築かれた伝統の上に立つ、今日の川高の姿というものを、この『くすの木祭』で、まがりなりにも表現してみたいと思います」と、力強く主張しています。

定時制生徒会長の宮古正男氏もこれに賛同し、全日制定時制合同で文化祭を行つことになりました。1948(昭和23)年9月から始まった文化祭は、マンネリ化の批判もふまえ、この年に心機一転しました。

市川 授業改革ということです、生徒会の自主講座を行つた。「形而上学について」「実存主義から構造主義へ」などの格式の高い講座が開かれました。

市川 話は変わりますが、文

化祭を前に発表された川越高

生徒会長の黒江春海君が、1969(昭和44)年度の文

柿澤 地域の人たちは自由化

をどう思つたのだろうか。

街中をだらしないかっこうで歩いている、と思う人もいるだろうね。

内田 中学のときは、いろいろ制約があり窮屈だったが、川高に入つたら自由でびっくりした。

制服の自由化後に学校の力ラーが出来ていくものだと思う。「良識を逸脱していないなら個性を謳歌しよう」というのが川高流である。

市川 生徒の質や学校の伝統もあるが、川越という地域がある。

内田 新たな生徒手帳には日本国憲法も入つており、立派だが、86(同61)年にモラル宣言が盛り込まれている。校風の乱れなど状況により見直されている。

編集長 生徒と教諭のたゆまぬ話し合いで「生徒憲章」ができしたこと。勝ち取つたものではないこと。もちろんの自主的な取り決めの結果、制服・制帽が無くなつたことが良く理解できました。

栗原(由) 1～2年の差で生徒たちの意識が大きく変化しました。

わつたんですね。当時、大学に行つてからデモに参加した

に行つてからデモに参加した

で全員が学生服。多くの運動部は部のユニフォームで通

デモしていた同じ時期に、母校でこんなことがあつたとは知りませんでした。

野口 私たちの時代も、先生とちょっと離れたスタンスで接していましたね。先生もい

ちいち細かい指示はしない。「自分のことは自分で決めろ」という雰囲気でしたから、生徒手帳なんて定期券を買う時しか意識したことなかつた。

栗原(忠) 川高に合格した時、尊敬していた小学校の先生の家に白線帽をかぶつて行つた記憶があります。やっぱり嬉しかったんだと思う。

通学の電車で女生徒から手紙

をもらつたり、川女の娘とデートしたり、多少の暴言や

行動は川高生だからと言つて

許されたり、白線の効果は絶大でした。

内田 現在、浦和・熊谷・春

日部・川高の4校で制服が規定されているのは、春日部高

校だけだそうだ。浦高は自由が多い。熊高もそうだ。我高もその生徒を着てている生徒

が校は、野球部は部の決まりで全員が学生服。多くの運動

部は部のユニフォームで通

学しているようです。学帽をかぶつているのが見られるの

は応援団の旗手長だけ。団旗を掲げている時に白線帽をかぶっています。

制服を自由化した高校はそれぞれの校風がみられる。

栗原(由) 制服は自由だが、川高は教師と生徒が話をし、お互い納得してから行動する校風がある。

野口 あの時代に男女共学の話はでなかつたのですか。

市川 そういえば、川越女子高と同じ授業を受けました。確かホームルームだつたと思うが。

内野 私の頃はなかつた。

内田 私の時はありました。浦和一女では交流規定なるものがあつたそうですよ。年に

1回ホームルームを合同で行えるというものでした。今はやつてませんね。

川越女子高と合同新入生歓迎会を行つたことがある。なぜ、川女とだけとの批判もあり、数年でやめた。

現役生に望むこと

編集長 最後に現役の川高生に一言お願いします。

柿澤 息子も川高だつたので、最近の子はみんな優等生でおとなしい。もう少し元気が欲しい。個性をもつと出してほしい。大学受験だけで

編集長 本日は、長時間にわたり、貴重なお話をありがとうございました。



座談会に出席した(右から)市川英一氏、内田徹氏、柿澤日出夫氏、内野雅視氏、野口孝氏、大澤誠編集長

ルームを行つた縁がいまだにあり、還暦の同期会の一次会をやつたが、終わつて真ん中で寂しいよ。

内田 生徒手帳をよく読んでほしい。昔の先輩たちがお仕着せでなく自主的に作り上げたもの。よく読んで、川高生とはなんだ? ということを考えてほしい。「時代に合わない、こうすべきだ」ということがあれば、作り直せばよい。そんな活動も高校生活の二次会の合同懇親会となつた(笑)。

なく高校生活をもつと楽しんでほしい。受験勉強だけじゃ寂しいよ。

内田 生徒手帳をよく読んでほしい。昔の先輩たちがお仕着せでなく自主的に作り上げたもの。よく読んで、川高生とはなんだ? ということを考えてほしい。「時代に合わない、こうすべきだ」ということがあれば、作り直せばよい。そんな活動も高校生活の一環だと思います。

編集長 本日は、長時間にわたり、貴重なお話をありがとうございました。

定時制ものがたり

生徒とともに歩んだ事業主と
教師の会 本校教諭・福井孝夫

定時制教育の環境するには、事業者と教師との緊密な連携を図ることが、必要であるとの認識の下で、ETAが設立しました。このことについて、百周年記念誌「くすの木」から再掲します。

ETAとは

正式名称を「川越地区定時制事業主と教師の会」といい、川越高校定時制と川越工業高校定時制に通う生徒の事業主および両校の教員で組織する会である。発足は一九六二(昭和三七)年である。

発足の経緯

埼玉県での動きに少し触れる必要がある。記録によると、一九五六(昭和三二)年より県全体の事業主懇談会が定通振興会の主催で行われていたようである。また、これと並行あるいは遅れて東部、西部、北部でも事業主懇談会が行われている。

西部地区においても、一九五九年に第一回の事業主懇談会が行われている。そして、一九六一年に川越工業高校で行われた第三回が本会発足のきっかけとなっている。この年は、五三名という非常に多くの出席者を得て、三つのテーマ、すなわち、第一が事業者側から学校への要望、第二が学校側からの要望、第三が両者の連繋を深めるに

はどうしたらよいかについて話し合われた。

この席上、後に初代会長となつた新文印刷社主の飯島謙輔氏により「将来学校単位に連絡団体をつくり、その上に西部地区の連合組織をつくるべきだ」との提言があり、その後急速に本会発足の準備がなされた。翌一九六二年一月には、飯島氏、新報国製鉄社長の永沢清氏、西川本校校長、小川川越工業校長が発起人代表として呼びかけ、結成準備委員会がつくれられている。会則等が検討され、また、入間川、朝霞、所沢分校の加入も決定された。

設立総会は、一九六二(昭和三七)年七月二十三日、埼玉銀行(現あさひ銀行)会議室にて行われた。飯島氏が初代会長となり、当日加入の事業所は二社であった。

発足後の五年間

ETAが結成された当時は、高度成長期の始まりで、いわゆるエレクトロニクス産業が台頭してきて、県外からの入学者が非常に多くなってきた折であった。比較的遠距離の事業所から、まとまって通学する生徒も多かつた。したがって、授業に間に合うための配慮や下校時の足の確保、雇用の開拓などETAの役割は重要なものであった。財政的にも、文化祭・体育祭などの学校行事への援助、卒業生に対して記念品の贈呈が行われていたようである。一九六六年の両校の生徒数は、川越高校が中心高だけで四一〇人と開校以来の数を示し、川越工業高校も三〇二人を最盛期であった。

この間に、会則が整備され、表彰内規も制定された。これは、卒業まで同一勤務先において、学業と勤労を両立させたり、学業と勤労を両立させたり、優良生徒を表彰するものである。一九六四年には会報の創刊号が発行されている。この創刊号の裏面には、当時の事業所別生徒数が載っているが、主な事業所あげてみよう。()は生徒数。



最近のETA

一九八五年(昭和六〇)年代に入ると、第二次ベビーブームの影響で一時的に生徒数は増えたが、その後減少を続けている。中学生時代不登校だった生徒も増加している。就業状況も、無職あるいはせいぜいアルバイトで、定職に就いているのは、二〇代以上が実に少なくなってしまった。一九八二年から第三代

フィルター工業(六)など。

▽入間川分校：航空自衛隊入間基地(三四)、狹山精密工業(一七)、シチズン時計(二三)、(八)、日本電波工業(七)、パイオニア(六)など。

表彰内規

一生徒の表彰について

- 1 在学三カ年以上同一勤務先に引き続き勤務しているもので、人物、学業成績共に優良にして、誠実に職場で勤務しているもの

- 2 学芸、体育スピーチに顕著な成果をおさめたもの

- 3 他の生徒の模範となる行為をなしたもの

1 定時制教育および本校について

2 学校の施設、備品又は生徒の奨学に多大の援助を行なったるもの

3 の発展に功労の大なるもの

4 表彰の時期は原則として総会の当日とする。

5 表彰する生徒の数は原則として学級数とする。

6 この内規は昭和三十九年十月二十七日より施行する

会長を引き受けている川越光学社長の渡井慶之進氏や関係者は、今後のETAの運営に苦慮しているところである。

第五回紫縁展開催 鹿山 孝(高18)

第五回紫縁展が9月5日から10日まで、川越市立美術館市民ギャラリーで開催されました。川越高校美術部OB展から数えると第十回展であり、感無量です。

今回は現川越高校美術部顧問の田上司郎氏の尽力により、氏の教え子(川高OB)と現役部員の20人が加わりました。



田上氏(右端)と教え子たち

来場者があり盛況でした。当初500人ほどを予想していたため出品目録が足りなくなり、慌ててコピーしに走ったこともあります。

出品者は59人で作品数は83点(前回は36人61点)と増えたので嬉しい反面、展示が心配でした。が展示担当(板谷和夫氏を中心)の力で前回と変わらぬ見事な展示となりました。



紫縁展の作品出展者

その他、年1回、浦和・熊谷・春日部・川越の有志が集まり四校親睦囲碁大会を開催している。これまで4回開催されている。

今年は我が校が当番校。川越観光の振興も兼ねて、蓮馨寺講堂を会場に開催した。浦和7人、熊谷6人、春日部7人、川越は現役生を含め23人が参加した。



熱戦を繰り広げる参加者

くすの木囲碁クラブ



お世話になった連繫寺・糸原住職(高20)と記念写真



川高現役生も参加

30年度の活動

30年度からは、開催日を奇数月最終土曜日午後1時からに変更し年6回開催します。

また、囲碁を習ってみたい方を対象に講習会を囲碁会同日に開催します。会員申込み・お問い合わせは同窓会事務局までご連絡ください。

電話&ファックス

049(225)9071

4校OBが親睦の囲碁

第5回四校親睦囲碁会が川越市の蓮馨寺講堂で行われ、浦和・熊谷・春日部・川越のOB43人が参加した。会は当初、浦和と熊谷の2高校間で始まり、後に春日部・川越が加わった。

ハンデ戦で相手を変え、和やかな雰囲気の中で3局ずつ対戦し、成績優秀者から各校2人ずつに特別賞が授与された。今回の幹事を務めた川越高くすの木囲碁クラブ幹事長の三宅義信さんは「4校が団結するのが大きなテーマ。長く続けていくたい」と思いを語った。特別賞受賞者は次の通り(敬称略)上原忠、黒川喜市(浦和)橋本孝、大澤完治(熊谷)高橋徹、染谷孝雄(春日部)安藤平八、新井望丕(川越)(埼玉新聞掲載記事から転載)

各地区初雁会連絡先

地区初雁会は自主的に設立され、それぞれ独自の活動を行っています。しかし、現在は同窓会活動を推進する組織としての機能を果たしています。お近くの初雁会に声を掛けてください。同窓生の絆が深まります。

小川初雁会(昭和56年発足)	会長	田村 昭雄(高17)
事務局長	関根 堅司(高23)	
連絡先	0493(73)2350	

東松山初雁会(平成9年発足)	会長	高島 敏明(高16)
事務局長	大塚 基司(高19)	
連絡先	049(323)8621	

越生初雁会(平成21年発足)	会長	吉澤 優(高19)
事務局長	浅見 登(高18)	
連絡先	049(292)5174	

在京初雁会(昭和28年発足)
会長 西 信之(高17)
事務局長 大館 廣(高21)
連絡先 090(5569)0360

坂戸初雁会(平成4年発足)
会長 清水 純一(高20)
事務局長 太田 庄一(高29)
連絡先 049(285)0603

朝霞初雁会(平成10年発足)
会長 比留間 明(高18)
事務局長 橋本 正彦(高10)
連絡先 048(477)1153

初雁医会(平成13年発足)
会長 岩堀 弘明(高8)
事務局長 加島 篤人(高34)
連絡先 049(241)1054

志木初雁会(平成5年発足)
会長 横内 正(高5)
事務局長 神木 茂(高25)
連絡先 049(262)5006

所沢初雁会(平成11年発足)
会長 斎藤 博(高9)
事務局長 斎藤 清(高19)
連絡先 048(465)1800

◆医師のグループの会があります。
会長 原田 雅義(中45・46)
事務局長 岩堀 弘明(高8)
連絡先 049(2962)1251

飯能初雁会(昭和53年発足)
会長 本橋 孝之(高25)
事務局長 市川 章弘(高7)
連絡先 042(972)7225

和光初雁会(平成6年発足)
会長 田中 康久(高19)
事務局長 大竹 充(高31)
連絡先 048(468)8692

鶴ヶ島初雁会(平成7年発足)
会長 岸 昭夫(高2)
事務局長 渡辺 勉敏(高9)
連絡先 049(294)0324

毛呂山初雁会(平成8年発足)
会長 岡部 政一(高20)
事務局長 大野 恵司(高20)
連絡先 049(285)2345

◆医師のグループの会があります。
会長 原田 雅義(中45・46)
事務局長 岩堀 弘明(高8)
連絡先 049(2962)1251

日高初雁会(昭和53年発足)
会長 吉田 正(高10)
事務局長 平井 進(高21)
連絡先 042(989)8200

川島・桶川初雁会(平成8年発足)
会長 岡部 政一(高20)
事務局長 大野 恵司(高20)
連絡先 049(297)0719



母校だより(一)

平成29年度
文化講演会



平成29年12月15日(金)
13時30分～15時30分
松本万夫(高22回)

◆講師

◆現職
公益社団東松山医師会東松山医師会病院病院長
埼玉医科大学国際医療センター心臓内科不整脈科・教授

◆演目
『川越高校先輩からこれからの皆さんへ』

◆講演内容
『死について』

松本氏の最初の「こんにちは」に対する生徒の「こんにちは」の返答に「元気がないですね」という松本氏の元気な挨拶からスタートした。私の経験が何か皆さんの参考になればということから、テレビ番組の「しくじり先生」の形式でご講演された。

◆自己紹介
「私の履歴書」

自身の生い立ちをその当時の時代背景と共にお話ししたいた。また誕生日が同じ著

名人の紹介、また菅原道真の命日が自身の誕生日にあたること、自分は道真の生まれ変わりと信じ、思い込んで生きてきたとのことだった。

高校時代は音楽部に所属し歌声喫茶に行っていた話、合唱についてや当時の仲間との交流についてお話をください。また、川越高校で生徒憲章ができた当時の社会の様子から騒々しい中での受験勉強であったこと、大学選択について国公立や私立の違いなどにふれながら説明された。

医学部での生活

広島大学医学部へ進学されてからの学校生活について、ユーモアを交えお話しされた。寄生虫学の授業の際に地元の東松山が扱われた話に触れ、勉強は面白く、休むことはなかつた。また、クラブ活動は軟式テニスに取り組み、他にも英会話クラブを立ち上げ、外国人観光客を町で案内したりしながら語学力を磨いたり、銭湯同好会を立ち上げるなど行動力がうかがえるパワーあふれる内容であつた。

◆専門分野の話
死について

心筋梗塞や心筋症・心臓疾患・心臓震盪などに関してそれぞれの違いやどのようなメカニズムで起こるのかなど説明があった。心臓疾患については、若い人の間で起こりやすいブルガーダ症候群や、近年危険な事故にもつながり注目されているSAS(Sleep Apnea Syndrome..睡眠時無呼吸症候群)についても述べた。

◆医者としての生活
医師国家試験も合格し、大学卒業後は埼玉医科大学での勤務となつた。医者として患者を取り戻したいと考え勤務に臨んだが、最善の治療を施し

たがうまくいかなかつたり、老化により死を見届けなくてはならなかつたりするという現実もあつた。2015年の統計で年間120万人が死亡くなつていく中、高齢化社会が伸展し今後は毎年さらに30～40万人死亡者は増えていくというデータもある。尊厳死・臨床倫理の観点から、本人の意思でどのように命を終えていくのかという問題についてもふれた。その中でBSC(Best Supportive Care: 末期がん患者に対するケア)やDNAR(Do not attempt resuscitation: 心肺蘇生を行わないなど、患者が万が一呼吸停止した場合の対処)についても説明され、今後の医療における重大なテーマであるといふとだつた。

◆まとめ
これから社会はますます災害が起きるかも分からない日本においては、心肺蘇生法・避難誘導などの知識は社会人としての必要条件であるといふことだつた。

「人生は算数。1+1=2かもしれない。ただ100-1=99ではない。人生においては100-1=0。その『1』はものすごく大きいことがある。積み重ねたものが崩れることがある」

「人生は山。高い位置に上がるといろいろなものが見えてくる。高校生の時には分からなかつたことが、分かつてくるようになる」と、非常に熱いメッセージを後輩たちに送られた。

とがある」とし、医療現場においても地域で高齢者を見守るシステムが必要であり、今はそのシステムづくりに取り組んでいるということだつた。自助・互助・公助のシステム構築のため、医療にかかる人たちが自分たちの役割を果たし、高齢者のみならず、子供たちも含めた支援を行いたとを考えている。これはお互いの役割を見極めて、自分がこの社会の中でどうやって機能していくかを考えるという点については、医療に限らず社会に出ても同じである。

母校だより (四)

2018年度 大学等入試合格状況一覧

國 立

大学略称名	現役		過年度卒	
	合格	入学	合格	入学
旭川医大			1	1
北海道大	5	5	6	6
弘前大			1	1
東北大	6	6	6	5
山形大	1	1	1	1
茨城大	1		1	1
筑波大	3	3	2	2
群馬大	1	1	3	2
埼玉大	20	19	4	4
千葉大	5	5	2	2
東京海洋大	1	1	1	1
電気通信大	1	1	2	2
東京大			1	1
東京外大	3	3	1	1
東京学芸大	4	4	1	1
東京芸大			1	1
東京工業大	4	4		
東京農工大	11	11	3	3
一橋大			3	3
横浜国大立大			1	1
新潟大	1	1	1	
金沢大	1	1		
信州大	3	3	2	2
名古屋大			1	1
京都大	5	5		
大阪大			1	1
九州大			1	1
長崎大			1	1
計	76	74	47	44

公 立

大学略称名	現役		過年度卒	
	合格	入学	合格	入学
国際教養大	1			
高崎経大	1		1	1
首都大東京	8	7	2	2
福井県立大	1			
都留文科大	1			
静岡県立大			1	
名古屋市立大	1			
計	13	7	4	3

私 立

大学略称名	現役		過年度卒	
	合格	入学	合格	入学
東北医大			1	1
埼玉医大	3	1	1	
城西大			1	1
獨協大	5	1	2	
日本工大			1	
文教大	8	3	4	2
文京学院大			1	
目白大	1			
日本薬大	1			
千葉工大			3	2
青山学院大	11	4	2	1
亞細亞大			3	1
学習院大	10	1	4	2
北里大	3	2		
杏林大	1	1		
慶應大	14	9	11	2
工学院大	1		2	
国学院大			3	
国際基督教大	3	1	2	
国士館大	1		1	
駒澤大	3			
芝浦工大	43	4	20	2
上智大	3	1	16	3
昭和薬大			2	
成蹊大	5	1	10	1
成城大	2		7	
専修大	5			
大正大	1			
大東文化大	1		3	1
拓殖大			1	
玉央大			1	
中央大	50	11	20	2
帝京大	2	1	2	
東京海大	1	1		
東京経大			3	3
東京工科大	1		1	1
東京造形大			1	
東京電機大	20	3	8	
東京農大	6	2	4	1
東京薬大	5	1	1	
東京理大	36	10	29	3

私 立

大学略称名	現役		過年度卒	
	合格	入学	合格	入学
東邦大	2			
東洋大	21	3	26	5
二松学舎大	1			
日本本大	29	5	22	6
日赤看護大	1	1		
法政大	53	10	31	5
星薬大			3	1
武藏大			7	3
東京都市大	5		4	1
武藏野大			1	
武藏野美大			2	1
明治治大	79	16	43	11
明治学院大	1		1	
明治薬大			5	1
立教大	26	3	23	4
早稻田大	40	23	39	13
デジハリ大	1	1		
神奈川大			1	
関東学院大			1	
昭和音大			1	1
マリアンナ医大			1	1
帝京科学大	1			
諏訪東京理大			1	
大谷大	1	1		
関西大	1	1		
計	509	122	383	82

大学校

大学略称名	現役		過年度卒	
	合格	入学	合格	入学
防衛大学校	1	1		
計	1	1		

人事異動

転入

飯田 敦
川越南高校市川 京
教育局総務課

退職

桑原一郎
川越高校(再任用)村口将美
川越高校

教頭

青木勇藤
川越高校阿部 宏
川越高校

教諭

神田長希
鶴ヶ島清風高校相馬貴彦
鶴ヶ島清風高校

教諭

新山哲史
狭山清陵高校

川越初雁高校

教諭

坂西拓也
東部教育事務所柳川省吾
東部教育事務所

教諭

上田光康
鶴ヶ島清風高校小貫央嗣
鶴ヶ島清風高校

教諭

松本友孝
東部教育事務所前島行弘
朝霞高校

教諭

柳川裕太
飯能南高校(再任用)中島規子
飯能南高校(再任用)

教諭

鶴ヶ島清風高校(再任用)
相馬幸子鶴ヶ島清風高校(再任用)
曾根光幸

教諭

坂西拓也
東部教育事務所柳川省吾
東部教育事務所

教諭

上田光康
鶴ヶ島清風高校小貫央嗣
鶴ヶ島清風高校

教諭

松澤みさき
大宮武蔵野高校伊藤憲司
芸術総合高校

教諭

柳澤有一郎
大宮武蔵野高校泉谷悠平
浦和第一女子高校(臨任)

教諭

伊藤英治
坂戸高校(臨任)鎌田恭人
芸術総合高校(臨任)

教諭

鶴ヶ島清風高校(再任用)
相馬幸子浦和第一女子高校(臨任)
曾根光幸

教諭

鶴ヶ島清風高校(再任用)
竹内幸恵

所沢西高校(非常勤講師)

教諭

飯能南高校(再任用)
坂井義之

蕨高校(臨任)

事務局より

◆叙勲・褒章受章者

・平成28年春

瑞光双光章

町田権男氏(高2)

教育功労

元公立小学校長

・平成29年春

瑞宝小綬章

新井孝次氏(高17)

教育功労

地方教育行政功労

元公立中学校長

元埼玉県教育委員会
市町村支援部長

・平成29年秋

旭日双光章

長島威氏(高13)

生活衛生功労

元全国すし商生活衛生
同業組合連合会理事

旭日単光章

神保照男氏(定11)

環境衛生功労

現(一社)埼玉県浄化槽
協会副理事長

黄綬褒章

伊田登喜三郎氏(高22)

業務精励(建設業)

現伊田テクノス(株)
社長

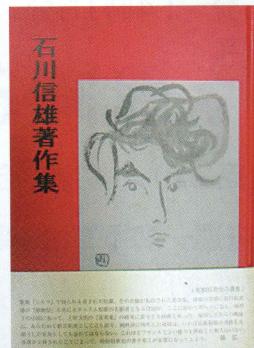
黄綬褒章
藤繩雅啓氏(高21)

業務精励(司法書士業)
現司法書士

「句集 安曇野」

◆寄贈図書

石川信雄氏(中22)
「石川信雄著作集」



宮崎見昭(敏明)氏(高3)
「句集 安曇野」

「句集 月下樹」

安曇野
宮崎見昭

加藤博之氏(高5)
「ひたすらに只ひたすらに」

長沢秀之氏(高18)
「未来の幽霊」
—長沢秀之展—

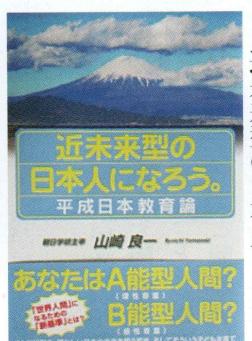


東金夢明(吉一)氏(高19)
「句集 月下樹」

「句集 月下樹」

月 下 樹
げりそり

山崎良一氏(高21)
「近未來型の日本人になろう」



花村嘉英氏(高32)
「魯迅をシナジーで読む」

「魯迅をシナジーで読む」

月 下 樹
げりそり

加藤雅之氏(高33)
「ブリティッシュロック巡礼」



花村嘉英氏(高32)
「魯迅をシナジーで読む」

「魯迅をシナジーで読む」

月 下 樹
げりそり

花村嘉英氏(高32)
「魯迅をシナジーで読む」

◆総会のご案内

日時 5月27日(日) 午前9時半より受付

会場 川越氷川会館

電話 049(222)8417

・総 会	10時~	桂の間
・記念講演	11時~12時	
・懇 親 会	12時15分~14時15分	鳳凰の間
・懇親会費	7,000円	



◆記念講演

講師 松藤 千弥氏(高29) 東京慈恵会医科大学学長

演題 「私の畏敬する先達一海軍軍医・高木兼寛～ビタミンの父、海軍カレーの考案者」

同窓会ホームページを活用して下さい ▶ <http://alumni.gnk.cc/kawagoe/>

- ・過去の節目に発行された記念誌が、ホームページの『川中・川高・定時制の歴史』の項目「記念誌」に、PDFで掲載しています。「五十年誌」「七十年誌」「八十年誌」が全て見られます。
- ・年1回の同窓会報では載せきれない同窓生の活躍のニュースや学校行事など、随時掲載しています。また、「お問い合わせ伝言板」では、住所変更の連絡、同期会の呼びかけなどに活用できます。
- ・同窓会事務局への連絡には、専用電話&FAX 049(225)9017
また、メールアドレス alumni@hb.tp1.jp をご利用下さい。



最近では川越市居住の79歳の男性が、長男を騙る男から「株で損した」との電話があり、弁護士と騙る男に1000万円を手渡した事件がありました。

・オレオレ	19件
・架空請求	3件
・融資保証	1件
・還付金	6件
・合計	29件

息子や孫を装った現金をだまし取る手口で、警察官・金融庁・銀行・デパートの職員を装つてキャッシュカードをだまし取るケースが年々増えています。

平成29年1月1日～10月5日の川越市内の詐欺被害件数(未遂を含む)は、

巧妙に横行して 振り込め詐欺がいます。

結果、本校の制服自由化は、革命のような強行によってもたらされたものではなく、教師と生徒の話し合いによる建設的なプロセスで、時代に合った新たな規則が構築されたものだったことが分かりました。そこに互いの信頼関係や自主性を尊重する姿勢などに本校の特性を見て、一同溜飲を下げた次第。また、自由化の前後1年で在校生の意識が大きく変わったことを知るとともに、自由化後も「川高生」の良識が今もつて保たれていることを誇らしく思っています。

さて、本校では来年に創立120周年をむかえるにあたり、各実行委員が鋭意準備を進めています。本編集委員会も、今号より体制を新しました。これまで先輩諸氏が築いてくれた伝統を基に、皆さんの声を反映したより親しまれる冊子にしていきたいと思っています。そのためにも、会報で特集してほしい内容や興味のあるテーマ・忌憚ないご意見など、編集部または左記の委員まで気軽に寄せいただければ幸甚です。

荒大栗圓岡伊
牧澤原山部藤
澄由壽恒
多誠郎一雄豊
27262117152

小平栗仲尾
泉瀬原田崎勝
光正要男己
292623201611
(大澤)

編集後記